研究用

TakaRa

E. coli HST08 Premium Competent Cells

説明書

I. 内容

E. coli HST08 Premium Competent Cells 100 μ l × 10 pUC19 DNA (0.1 ng/ μ l) 10 μ l SOC Medium* 1 ml × 10

* SOC Medium の組成: 2% Tryptone

0.5% Yeast extract

10 mM NaCl 2.5 mM KCl 10 mM MgSO₄ 10 mM MgCl₂ 20 mM Glucose

Ⅱ. 保存 - 80°C

【注意】保存は-80℃以下で行ってください。温度管理が不十分な場合、形質転換効率が低下することがあります。そのような事態が予想される場合は、付属の pUC19 DNA を用いて形質転換効率を確認の上、使用してください。 液体窒素では保存しないでください。

III. 特性および用途

コンピテントセルは、外来 DNA を取り込む能力を持つ受容菌で、遺伝子組換え体プラスミドなどを取り込みます。形質転換の際に重要なツールです。タカラバイオでは、Hanahanの方法に改良を加え、このコンピテントセルを調製しました。

 $E.\ coli$ HST08 Premium Competent Cells は外来のメチル化 DNA を切断する遺伝子群 mr, hsdRMS, mcrBC, mcrA を欠失しています。さらに、非常に高い形質転換能力を持っているため、メチル化された DNA のクローニングから、遺伝子ライブラリーの作製、サブクローニング等に至るまで広く使用できます。また、長鎖プラスミド DNA の形質転換においても、高い効率が得られ、コロニー形成速度も速いため*、TaKaRa DNA Ligation Kit LONG(製品コード 6024)との組合せにより 10 kb 以上の DNA のクローニング、ライブラリー作製を容易にします。

*:同様の遺伝子型を持つ他のコンピテントセルと比較した場合。

pUC 系プラスミドでの形質転換の際には、 β - ガラクトシダーゼの α - 相補性を利用し、X-Gal 添加による青白選択を行うことができ、組換え体の選択が容易となります。

X-Gal: 5-Bromo-4-Chloro-3-Indolyl- β -D-Galactoside

IV. 使用方法(プラスミドベクターで形質転換する場合)

- (1) E. coli HST08 Premium Competent Cells を使用直前に、氷中で融解する。
- (2) 融解したら、穏やかに混和して均一にし、100 μlのコンピテントセルを 14 ml 丸底 チューブ (ファルコン・ラウンドチューブ等) に移す (ボルテックスは使用しない)。
- (3) 形質転換する DNA を加える (10 ng 以下が望ましい)。
- (4) 氷中、30分間放置する。
- (5) 42℃で 45 秒間インキュベートする。
- (6) 氷中1~2分間放置する。
- (7) あらかじめ 37℃に保温しておいた SOC Medium を最終 1 ml になるように加える。
- (8) 37℃で 1 時間振とうする (160 ~ 225 rpm)。
- (9) プレートに適当量まく。*
- (10) 37℃で一晩放置する。

*:プレートにまく液量は直径 9 cm プレートの場合 100 μ I 以下にしてください。

【使用上の注意】

- 1. コンピテントセルは必要本数だけを取り出し、運搬時はドライアイス/エタノールに入れてください。
- 2. 14 ml 丸底チューブ (BD 社 Code. 352059 または 352057 等) の他、1.5 ml マイクロ 遠心チューブを用いても形質転換は可能ですが、効率が若干悪くなることがあります。
- 3. 100 μ I のコンピテントセルを用いる場合、形質転換に用いる DNA の量を、高純度 なもので 10 ng 以下にしないと、効率は悪くなります。
- 4. スケール (コンピテントセルの量など) を変えたり、他のチューブを用いたりする場合には、最適の条件を検討する必要があります。 (例えば、1.5 ml マイクロ遠心チューブを用いるときは、42℃で 60 秒間インキュベートしてください。)
- 5. 回復培養は、SOC Medium の他、L-broth や ψ b-broth でも構いませんが、若干効率が悪くなることがあります。

< L-broth >

10 g Bacto tryptone、5 g Bacto yeast extract、5 g NaCl/1 L water を 1 N NaOH で pH7.5 前後に調製し、オートクレーブする。

$<\psi$ b-broth >

5 g Bacto yeast extract、20 g Bacto tryptone、5 g MgSO4・7H2O/1 L water を 1 N KOHで pH7.5 前後に調製し、オートクレーブする。

- 6. 希釈の必要なときは、IV. 使用方法 (7) で加えた培地で希釈してください。
- 7. L- プレート: 10 g Bacto tryptone、5 g Bacto yeast extract、5 g NaCl/1 L water を 1 N NaOH で pH7.5 前後に調整し、1.5%になるよう agar を添加し オートクレーブする。
- 8. X-Gal を添加する場合は以下のようにしてください。
 - ・ 20 mg/ml X-Gal (ジメチルホルムアミドに溶解) を 200 \sim 300 μ l/100 ml 寒天培地 に添加する。
- 9. 一度融解したコンピテントセルを再度凍結保存することはお勧めしません。やむを 得ず行う場合、ドライアイス/エタノール中で凍結させ、- 80℃で保存してください。 ただし、形質転換効率は1オーダー以上低下する可能性があります。

V. 品質

1. 形質転換効率

IV. 使用方法 (プラスミドベクターで形質転換する場合) の方法により 1 ng の pUC19 プラスミドで形質転換し、Amp+ のプレートでコロニーを選別しました。 このとき、 $> 1 \times 10^8$ colonies/ μ g・pUC19 プラスミド DNA の効率を得ました。

2. β - ガラクトシダーゼの α - 相補性の確認

pUC19 DNA を用いて形質転換を行い、100 μ g/ml のアンピシリン、60 μ g/ml X-Gal を含む L - 寒天培地にプレートした場合、青色のコロニーが出現することを確認しています。

VI. Genotype

E. coli HST08 Premium:

F⁻, endA1, supE44, thi-1, recA1, relA1, gyrA96, phoA, Φ 80d lacZ Δ M15, Δ (lacZYA - argF) U169, Δ (mrr - hsdRMS - mcrBC), Δ mcrA, λ ⁻

VII. Cell density $1 \sim 2 \times 10^9$ bacteria/ml

VIII. 参考文献

- 1) Hanahan, D. J Mol Biol. (1983) 166: 557.
- 2) Messing, J. Gene. (1985) 33: 103.

IX. 関連商品

E. coli HST08 Premium Electro-Cells (製品コード 9028)
TaKaRa DNA Ligation Kit LONG (製品コード 6024)
pUC118 DNA (製品コード 3318)
pUC119 DNA (製品コード 3319)
制限酵素切断 BAP 処理済 pUC118 DNA (製品コード 3320 ~ 3324)
X-Gal (5-Bromo-4-Chloro-3-Indolyl- β-D-Galactoside) (製品コード 9031)

X. 注意

- ・本製品は研究用試薬です。ヒト、動物への医療、臨床診断には使用しないようご注意ください。また、食品、化粧品、家庭用品等として使用しないでください。
- ・ タカラバイオの承認を得ずに製品の再販・譲渡、再販・譲渡のための改変、商用製品の製造に使用することは禁止されています。
- ・ライセンスに関する情報は弊社ウェブカタログをご覧ください。
- ・本説明書に記載されている会社名および商品名などは、各社の商号、または登録済みもしくは未登録の商標であり、これらは各所有者に帰属します。

製品についての技術的なお問い合わせ先

テクニカルサポートライン

Tel 077-565-6999 Fax 077-565-6995 ウェブサイト http://www.takara-bio.co.jp

タカラバイオ株式会社